

「5分のはしご」の回し方（先生用・おもてうら1枚）

教科書を1ページも増やさずに、同じ表現に出会う回数だけを増やす帯活動です。語や表現は5回から10回出会ってやっと使えるようになると言われますが、教科書の1単元で1回しか出てこない表現は、その回数にまだ届いていません。45分に1分も足さず、歌・チャンツの帯5分と入れかえるだけで回します。音源は要りません。

回しかた 説明ゼロで始める5分（音源は使わない）

- 1 Today's ladder is Set A.
はしごカードから今日のセットを1つ言う（黒板を指さすだけ・説明はしない）
- 2 Round 1. Sixty seconds. Go!
1ラウンド目60秒。ペアで、1段目から3段目まで3文つづけて言う（言い終わったら相手の番。それから戻る）
- 3 Change partners.
相手を替える（立ち歩き・列ずらし・どちらでもよい。ここに30～60秒かかる前提で組む）
- 4 Round 2. Forty seconds. Go!
2ラウンド目40秒。同じはしごをもう一度。時間が短いのがこの活動の芯
- 5 「止まらずに3段まで言えた人？」と聞き、◎○△を手で出す（◎＝グー・○＝チョキ・△＝パー）。紙には書かない

・2ラウンドで止める。3ラウンド目は相手を替える実時間（35人・固定机で30～60秒）を計算に入れていない机上の型です。60秒→40秒の時間短縮だけを残しました。

・同じ内容をくり返す。2回目新しい話題を出すと、うまくいくのは速い子だけです。同じことを短い時間と言いつけた——この経験が流暢さになります。

・◎○△は「言い切れたか」だけ。正しさ・発音・文の数は見ません（見ようとした瞬間に、子どもは短い文を連発するようになります）。

どのコマに置くか 入れかえてよいのは歌・チャンツの帯だけ

置く	帯が「歌・チャンツ」のコマ	ここと入れかえる。年間でいちばん多い帯
置かない	Small Talkのコマ	単元8時間に2コマしかない。ここを潰すと、聞く量とやり取りの本体が減る
置かない	単元末の発表のコマ	発表の準備・本番でいっぱい。帯は置かない
置かない	パフォーマンステストの日	テストの日は帯を置かない（ローテを回す時間が消える）

1年の割り当て 単元番号ではなく学年×学期で決める

	1学期	2学期	3学期
小5	セットA すきなもの	セットB できること	セットC ほしい・行きたい
小6	セットA・B をもう1周（1周目より速く）	セットD したこと	好きなセットを選ぶ（卒業前の総復習）

教科書の単元番号ではなく学年×学期で割り当てています。東書と光村では単元の順番がちがうので、単元に連動させると「まだ習っていない表現を言え」という紙になってしまうためです。1つのセットを1学期まるごと使い、週1回置ければ、その3本を学期に8回以上口に出す計算になります。

音のはしご 単元の第1・2時だけ

音のはしご（文字を使わない耳の活動）は、**単元の第1・2時だけ**に置きます。毎回やる活動ではありません（日本語の話者は音を「モーラ＝かな1文字」で切りやすい、という一点への手当てです）。

- ・**あたまの音あつめ** 先生が3語言い、同じ音ではじまる語を子どもが手を挙げて言う（cat / cup / cake）
- ・**おわりがそろふことば** cat と hat のように、おわりの音がそろふ組をさがす
- ・**手びょうして音の数** cat（1回）／rabbit（2回）／banana（3回）。かなの数ではなく音のかたまりの数で打つ

やらないこと この4つで、活動はかんたんに壊れます

①	文の数を相手に数えさせる（短い文を連発するほど得になり、くわしく話す子が損をします）
②	タイムを測って記録する・掲示する（時間は先生のタイマーの中だけ。記録するのは◎○△だけです）
③	速く言えた子に「先生役」をたのむ（本人が話す機会が消えます。たのむなら記録役・まとめ役という役割の質で）
④	新しい表現をここで教える（はしごは既に出会った表現の再会だけを引き受けます）

記録は増やさない

この活動で紙は増やしません。学期の記録は既存の「きろくパスポート」1枚に集約します（言えた文の数・話した相手の数・自分から出した質問の数を、学期の終わりに1回だけ書く）。はしごの3段目をすべて質問にしてあるのは、この「自分から出した質問」につながるためです。

◎○△は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。この帯は記録に残す評価の場面ではなく、子どもが自分の伸びを感じるための活動です。